令和８年度国立淡路青少年交流の家教育事業
Let’ｓ アウトドアクッキング　実施報告

１　趣　　旨　　子ども食堂を利用している子どもたちが、いつもご飯を作っている方々へお礼の気持ちを込めて、自分たちでご飯を作ることで感謝を伝える場にする。
　また、大人数でご飯を食べることで、学年を超えた交流や協力の仕方を学ぶことを目的とする。様々な活動を体験することで料理やクラフトに興味をもってもらう。

２　主　　催　　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立淡路青少年交流の家

３　後　　援　　南あわじ市教育委員会

４　協　　力　　特定非営利活動法人ひだまりのわ

４　日　　程　　令和８年９月 26 日（土）日帰り

５　場　　所　　国立淡路青少年交流の家（兵庫県南あわじ市阿万塩屋町７５７－３９）

６　参加人数　　45 名
内訳：男性 23 名　女性 22 名
（1 年生：12 名　2 年生：2 名　3 年生：10 名　4 年生：7 名　5 年生：11 名　6 年生：3 名）

７　対 象 者　　小学 1 年生～6 年生

８　プログラム内容
9 月 26 日（土）
【オリエンテーション】9：15～10：00
　はじめに、1 日の流れについて説明した後、職員、連携先スタッフ、ボランティアによる自己紹介を行った。
　その後、ボランティアの進行のもと、自己紹介を兼ねたアイスブレイクを実施した。アイスブレイクでは「おそろいさがし」を行い、「同じ小学校」「同じ学年」「ランドセルの色」「着ている服の色」「好きな教科」などのお題ごとに、共通点のある参加者同士が集まった。参加者は様々な小学校から集まっており、多くの児童が初対面であったが、「同級生がいっぱいいる！」「ランドセル同じ色だね！」といった声が聞かれ、活動を通して徐々に緊張がほぐれていく様子が見られた。
　続いて、班ごとにゲーム形式で自己紹介を行い、チーム名を決定した。アウトドアクッキングに向けてお互いを知り、協力し合うための土台づくりとなる時間となった。





【アウトドアクッキング】10：30～14：45

火おこしから片付けまでを自分たちで行う「アウトドアクッキング」を実施した。活動では、各班で役割分担をしながら協力して取り組んだ。材料の計量が初めてという児童もおり、計量器の使い方を学ぶところから始めた班もあった。

ピザ作りの場面では、低学年と高学年がペアとなり、高学年が自主的に作業を教えたり手伝ったりする姿が見られた。年齢の異なる児童同士が互いに支え合いながら活動する様子が印象的であった。

ピザ生地の発酵時間には、高学年は火おこし、低学年は火おこしに必要な材料集めと、二手に分かれて活動した。まず、クイズ形式で火おこしに必要なものや燃えやすい素材の順番について確認した後、低学年は野外炊飯場周辺で落ち葉や枝を集める競争を行った。「高学年の火おこしのためにたくさん集めよう」と声をかけると、予想以上に多くの材料が集まり、協力する意識がうかがえた。一方、高学年は連携先スタッフの指導のもと火おこしに挑戦した。低学年が集めた材料を活用しながら取り組み、自然学校などでの経験も生かしてスムーズに火を起こすことができた。

ピザのトッピングでは、一人ひとりが自分のピザを作成した。具材で顔を作ったり、ハート型に並べたりするなど、個性豊かなピザが完成した。児童たちは特に集中して取り組んでおり、創意工夫を楽しむ様子が見られた。

また、焼き芋づくりも同時進行で行った。完成した焼き芋はしっとりとした食感で、参加者からは「おいしい」という声が多く聞かれ、ピザとともに好評であった。

活動後の片付けでは、洗い物だけでなく床掃除まで丁寧に取り組む姿が見られた。最後まで自分たちの活動に責任を持ち、協力しながら作業を進めることができていた。

一方で、ピザを焼く工程に想定以上の時間を要し、全体の進行が予定より遅れる場面があった。そのため、全員そろって食事をすることができず、完成したピザの感想を共有する時間を十分に確保することができなかった。また、焼く担当をしていたスタッフやボランティアの食事時間が十分に取れなかったことも今後の改善点として挙げられる。

しかしながら、参加者アンケートには「ピザづくりが楽しかった」「おいしかった」といった感想が多く見られた。活動を通して、異年齢の仲間と協力して一つのものを作り上げる楽しさや達成感を味わうことができ、参加者にとって有意義な体験の機会となったと感じた。











【クラフト（焼き板づくり）】15：15～16：15

アウトドアクッキングと並行して、焼き板づくりを実施した。高学年が野菜を切る作業を行っている間、低学年は板についたすすをたわしで落とす作業に取り組んだ。児童たちは手や服を黒く汚しながらも、一生懸命に板を磨いており、熱心に活動する姿が印象的であった。

アウトドアクッキング終了後は、室内で焼いた板への絵付けを行った。好きなキャラクターや自分の名前を描いたり、部屋に飾るウェルカムボードとして仕上げたりするなど、それぞれが工夫を凝らしながら作品づくりに取り組んだ。

使用できるペンの数が限られていたため、お互いに譲り合いながら使用する姿も見られた。また、中には30分以上集中して作業を続け、終了時刻ギリギリまで作品づくりに没頭する児童もいた。

完成した焼き板は、それぞれの個性や思いが表れた作品となり、参加者にとって活動の思い出を形として持ち帰ることのできる記念品となった。家に持ち帰った後も、活動について保護者と会話するきっかけとなればうれしい。





9　参加者の声（アンケートより抜粋）

・板に絵を書くことが楽しかった。
・ピザがおいしかった。
・ピザを自分で作って自分で食べられてうれしかった。
・初めは不安だったけどやったら楽しくなった。
・今日初めて会った子と友達になれてうれしかった。

10　所感

本事業では、一から料理を作る体験を通して、料理をすることの楽しさや食事ができることのありがたさを感じてもらうことをねらいとして実施した。また、初めて出会う仲間と協力しながら活動に取り組み、最後までやり遂げる達成感を味わうことも目的の一つとした。参加者アンケートでは、「初めて会った子と友達になれた」「家ではできないことがいろいろな経験できた」「みんなで協力してピザを作ることができた」といった感想が寄せられた。活動を通じて新たな交流が生まれ、協力することの大切さや達成感を感じてもらうことができたことから、概ね事業の目的を達成できたものと考える。

当日は終日雨であったため、晴天時に予定していた水鉄砲遊びを実施することはできなかった。しかし、その分アウトドアクッキングの時間を十分に確保することができ、待ち時間には鬼ごっこなどの自由遊びを取り入れることで、参加者同士が自然に交流を深める機会となった。

また、事業の実施にあたり、施設が所在する市内の新聞販売店、公民館、子ども食堂、地域住民の方々などと打ち合わせや連絡調整を行った。その過程で地域とのつながりを深めることができ、当施設の活動を広く知っていただく機会にもなった。今後も地域との連携を大切にしながら関係づくりを継続し、当施設の利用促進や事業の充実につなげていきたい。

以上